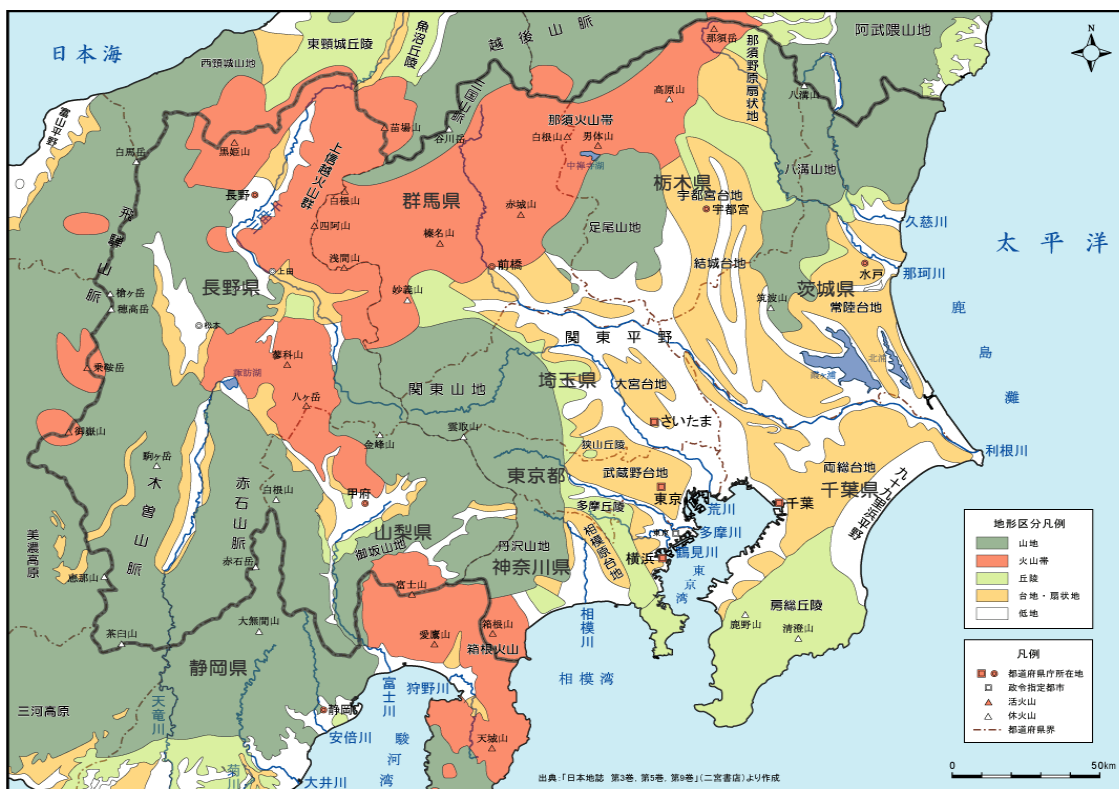


関東地方を概観すると、北と西を山地に、東と南を太平洋に囲まれ、中央部に関東平野が広がる地形となっています。そこに、日本の最高峰である富士山をはじめとする山岳、豊かな水郷景観を形成する霞ヶ浦等の湖沼、太平洋に突き出、長い海岸線を有する房総半島と相模湾に伸びた三浦半島、そして、その2つの半島に抱かれた東京湾等、多様な地形が展開しています。

関東地方は、中世以来、鎌倉や江戸を中心とした武士社会の展開を基礎として、わが国の中心的地位を確立しました。特に、中世末期から近世初期にかけて、徳川幕府により城下町としての江戸の整備、舟運と江戸等の洪水防御を目的とした利根川の東遷・荒川の西遷事業や江戸を起点とする五街道の整備が進められ、関東地方発展の基礎が築かれました。

また、中山道や甲州街道が五街道として整備されたことは文化的にも経済的にも関東地方と甲信地区を強く結びつけてきました。

明治になって、江戸を東京とあらため、日本の首都となるにおよんで、その政治・経済・文化上の役割はとくに顕著となり、現在にいたっています。



関東地方の地形概要図

* :「日本地誌」第3巻, 第5巻, 第9巻 (二宮書店)より作成